

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【 理科 】

掲載数

54

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	理科	食物連鎖を通した命のつながり	理科の学習において、食物連鎖を学習した。ひとや動物は自らエネルギーを作り出すことができないため、他の生物を食べることで命を維持していることを知り、海、草原、土の中など様々な環境による食べる・食べられるの関係を考えることができた。道徳では、動物の立場や人の立場などそれぞれの立場で食べることを考えることで、命のつながりに対しての感謝の気持ちを感じていた。また「いただきます。」という言葉に意味を考えるきっかけにもなり、給食前の挨拶の際に、話題にする児童が多くいた。	理科 教科書 道徳 教科書
2 川崎市	小5	理科	生命のつながり	メダカを学年で飼育し、卵からどのように成魚まで成長をしていくのか、自分たちで観察をしながら学習を行った。卵の観察では、最初は透明で何もなかったところから、目のようなものができたり、心臓ができたりと順を追って成長していく様子に驚いていた。卵の中には途中からうまく成長しないものもあり、命の誕生は簡単なことではなく、とてもかけがえのないものだ実感していった。	理科 教科書
3 川崎市	小5	理科	人のたんじょう	人の発生についての資料を活用する中で、胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、人の発生や成長を調べる活動を行った。その中で、人は、母体内で成長して生まれることを理解した。胎児の母体内での成長について、目的に応じて、資料などを選択して調べ、それらの過程で得られた結果を記録・考察し、互いに伝え合った。具体的には、自分たちが母の体内のなかでどのようにして体が形成されたのか、母体内で育つために養分はどうしているのか、成長し生まれてくるまでどのぐらいの時間を要するのかなどの疑問が出て、個人やグループで調べ学習を行った。人の誕生について学習したことで、これまで以上に生命を大切にしようという気持ちをもっていた。	東京書籍5年「新しい理科」 関連書籍、サイト
4 川崎市	小5	理科	「メダカのたんじょう」	メダカの誕生から成魚になるまでを観察したり、飼育したりした。オス・メスの性別や、精子と卵子が結びつき、受精卵から命が誕生することを学んだ。受精卵から育てることを通して、生命の大切さを体感していた。メダカが大きくなるに連れて、児童が問題を見出し、水槽の環境を川に近づけることを考え、実践した。児童のふり返りから、生き物・動物・人、生命あるものはどれも大切だという考えが深まっていた。学習が終わっても、水槽の水温を気にして場所を移動する児童、欠かさず餌を与える児童など、自発的に生命を大切にする姿が見られた。次年度の5年生のために、育てたメダカを引き継ぎたいという思いをもち、現在も継続してメダカを育てている。	メダカ、水槽等を教材として扱い、生命に触れることができた。

5	川崎市	小5	理科	「人の生命のたんじょう」	メダカと人の誕生のしかたを比較した。魚類と哺乳類の違いから、人の赤ちゃんはお腹の中でどのように育つのかを考えた。人もメダカと同じように、受精卵から育つことや、栄養が必要なことを知った。出産までのことを、意欲的に資料で調べたり、養護教諭、保護者にインタビューしたりした。生命が誕生するまで、たくさんの方の思いや協力があることを感じ、想像することができた。児童は、マタニティマークをつけている方や、妊婦さんに座席を譲ること、優しく声をかけることなどを学習の終わりにふり返っていた。	養護教諭、保護者へインタビューできたことが、生命を大切にする具体的なイメージにつながった。
6	川崎市	小5	理科	「花から実へ～命をつなぐ～」	「魚のたんじょう」でメダカの卵のでき方について学習し、雄のもつ精子と雌のたまごが出会う必要があることが学習していた。「花から実へ」でも、植物であるヘチマにも雌雄が存在するのではないかと予想を立て、花粉がめしべにつく「受粉」が必要なことに気付いていた。そして新たな生命が次の芽を出し、命はつながっていくことに改めて気付いていた。子どもたちは、植物と同じように、人間も命はつながっているだろうと予想をし、単元を越えて命のつながりを意識している様子であった。	理科教科書
7	川崎市	小5	理科	防災教育 「地震や津波からいのちを守る」	「台風と気象情報」「流れる水の働き」の単元を通して、水害が起きる仕組みについて学習した。多摩川で過去に起きた水害について調べたり、動画を見たりして洪水の脅威や恐ろしさについて学んだ。自分の住む地域のハザードマップを調べたり、オリジナルのハザードマップを作ったりして大切な命を守るための方法について考えた。避難所で生活をしている人々の声を書かれた記事を読み、事前の備えの大切さを実感していた。様々な自然災害から自分や家族の命を守るための方法についてインターネットや図書、保護者へのインタビューを通して調べ、スライドにまとめてクラスで交流した。	各区で作成されているハザードマップなどの防災に関する資料を活用した
8	相模原市	小5	理科	人のたんじょう	この単元までに、植物の発芽や生長の条件についての実験を行ったり、メダカの誕生について卵を観察したり調べたりしていた。本単元では、母体内の胎児は対象であるため資料映像や本、写真などを活用し胎児に着目して問題を見出し解決していった。	理科 「人のたんじょう」
9	相模原市	小5	理科	魚のたんじょう	メダカの飼育を通して、生き物の命の尊さや命のつながりについて考えた。また、クラスでの飼育を始めると愛着をもって世話をするだけでなく、命を扱うということの責任についても考える児童の姿が見られた。	
10	相模原市	小5	理科	「人のたんじょう」～命のたんじょうの学習～	「人のたんじょう」の学習において、児童が主体的に学習に取り組めるように、話し合いから課題を立て、調べ学習を行った。書籍やインターネットで調べる活動と共に、養護教諭に協力を得て、児童の疑問に答えてもらう形で学習を行った。最終的には、調べたことをもとに、命について考えたことを資料にまとめて発表した。	養護教諭に協力

11	相模原市	小5	理科	メダカの誕生	理科の「メダカの誕生」の学習で、それまで学んだ植物の命の繋がりから、メダカも同じように精子と卵子が結びついて命が生まれ、次に繋がっていくことを学びました。そうした学びから、自分たちも親から命をもらい、今があるという話し合いになりました。植物も動物も人間も、命を繋いで生きていることを感じた子どもたち。理科の学習に合わせて道徳でも命を題材にした話し合いをすることで、命の繋がりと大切さを学ぶことができました。	
12	横須賀市	小3	理科	チョウをそだてよう	三年生では、理科「チョウをそだてよう」の単元で、カイコを育てた。カイコを幼虫から成虫まで育てる学習を通して、カイコの一生や生態について学習をし、一つの命の大切さについて考えさせた。蚕の世話をすることで、命と向き合うことや、一つの小さな大切な命について考えを深めた。また、実際に世話をすることで生き物を育てる大変さも、実感できた様子であった。	
13	横須賀市	小5	理科	メダカのたんじょう	一年間を通して、メダカの観察を続けた。小さな卵から少しずつ育ち、卵を産めるまでになること。それが繰り返されていくということ。そして、いつかは死んでしまうことを、実体験から学んだ。	
14	横須賀市	小5	理科	メダカの飼育	学習を兼ねて、メダカを教室で飼育した。子どもたちが、水かえや掃除、餌を与える定期的な世話を続けることで、自分たちが大切な生命を守っているという意識を高めることができた。また、メダカの死に直面したことで、子どもたちは、命は一度きりであること、死は、周り人たちを悲しませることを認識し、命に対する重みを実感した。	理科：教科書教材 「魚のたんじょう」
15	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	人のたんじょうについて資料を活用しながら、人の生命の誕生までを確かめた。また、時間経過とともに成長する胎児の様子を調べ、人のたんじょうまでに至る経緯を理解した。母親の子宮の中で、へその緒を通して、母親から養分などをとりいれながら成長したことや生まれた後も母乳などで大切に育てられて今があることなどを理解し、家族の大切さに気付くとともに、自分自身を大切にしたいと思うことへつながる学習となった。	
16	横須賀市	小5	理科	人間の誕生	人間の子どもが母親の子宮の中でどのように育っていくのかを、グループでそれぞれ「からだのでき方」「養分の取り方」「誕生するまでの期間」「子宮のなかの様子」の4つの観点で分担し、調べ学習や大人へのインタビューを通して学習を進めた。自分たちで調べた内容とインタビューの内容が個人によって異なることを発見し、学びをより深めることができた。まとめとして、それぞれが学んだことを1枚の新聞にまとめることができた。	

17	横須賀市	小3	理科	カイコを育てよう	<p>昆虫の育ち方を学習するためにカイコを育てた。子どもたちの中には、「気持ち悪いかからヤダ」などと育てることに否定的な子どもも見られた。そこで卵の状態から子どもたちに手渡した。1mm程度の黒い物体から幼虫が生まれてくる瞬間には歓声があがった。目の前の小さな命を気持ち悪がる子はおらず、ルーペで食い入るように観察を始めた。その後からは一人ひとり責任をもって世話を行っていった。途中、死んでしまうカイコもあり、悲しむ様子や申し訳なさを感じている様子が見られた。カイコは野生動物としては生息しておらず、外に逃がすわけにはいかない。大きく育ったカイコとのお別れとその宿命には、寂しさと同時に複雑な表情が見られた。</p>	シルク博物館「蚕の飼育マニュアル」
18	横須賀市	小3	理科	ちょうをそだてよう	<p>幼虫から繭を作るところまで育て、カイコの成長の仕方を学習した。チョウやカイコは、「卵→幼虫→さなぎ→成虫」と成長していくことを体験を通して学習した。それを受けて、バッタやセミといった昆虫は、同じ昆虫でも育つ過程が異なることを学習した。カイコを繭まで育てるか、成虫まで育てるかについて考えさせた。カイコが作った繭を生かしてちがう物に生まれ変わらせることで命をつなぐと考える子や、カイコを殺してしまうのはかわいそうだから成虫まで育てると考える子など、一人ひとりが命について深く考えられた。</p>	
19	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	<p>「魚のたんじょう」や「花から実へ」を学習し、生き物にはオスとメスがあることから、人にも男と女の性別があることを考えさせた。教科書や写真を使い、母親の様子やお腹の赤ちゃんの様子を見たり、自分の今までの成長を思い出したりして、体の成長や変化にも意識を向けさせた。また、本やネットで調べたことで、魚や植物との体の作られ方や体のつくりの違いを知る機会を作り、すべての生き物の「命の大切さ」や「生命のつながり」を身近に感じさせた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理科の教科書「人のたんじょう」 NHKforSchool 図書室の本
20	横須賀市	小5	理科	魚のたんじょう	<p>魚を育てる中で、卵の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、魚の発生や成長を調べる活動を通して理解を深めた。また、生まれた卵は日が経つにつれて中の様子に変化していくことを理解することができた。メダカの死を通して、「なぜ死んでしまったのか」「何がいけなかったのか」児童同士交流することで、死生観を学ぶことができた。</p>	NHK for school ふしぎがいっぱい
21	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	<p>人の成長を調べる活動を通して、胎児は「音が聞こえるか?」「呼吸はするか?」「尿を出すのか?」など疑問をもたせ、生命誕生の仕組みを学んだ。胎児・赤ちゃん人形を抱っこして大きさを実感し、子どもたちは「急速に大きくなること」や「思ったより重い」など思ったことを交流した。「自分がかわいがられて今まで生きていた」という感想もあった。実際に生命誕生の瞬間の映像を通して、初めて肺で呼吸をする様子を見て、驚きと共に生きていることは当たり前ではないと思いをもち児童も多くいた。学習を通して、一人一人大切な命を繋いでいくことや自分や家族、友達の命の大切さを改めて認識することができた単元であった。</p>	<p>NHK for school ふしぎがいっぱい 胎児人形(3か月、6か月) 赤ちゃん人形 妊婦疑似体験セット</p>

22	横須賀市	小5	理科	いのちの授業	<p>【目標】・自分のいのちの尊さを知ることができる。 ・自分のいのちと同様、友だちや自分以外の人のいのちを大切に思うことができる。</p> <p>【内容】・受精（精子と卵子が会う） ・妊娠のしくみ（子宮・臍帯・胎盤・羊水） ・妊娠中の胎児の様子（5週・9週・15週・21週…） ・出産～新生児（身長・体重）～産後（授乳・育児） ・思春期、LGBTQ、からだ作り</p>	横須賀市助産師会 養護教諭
23	横須賀市	小5	理科	人のたんじょう	理科の単元「人のたんじょう」の学習で、受精から誕生までの成長や母親の胎内などについて学んだ。38週も胎内で育つことや、赤ちゃんの栄養は母親から来ていることなどを学び、「生まれるまで大切に育ててもらっていたことが分かった。」や「いのちってすごいと思った。」など、自分の命をはじめとする人間の生命の尊さに気付く児童が多くみられた。	
24	湘南三浦	小5	理科	稲作	<p>昨年、すなわち4年生の冬に田おこしを行った「稲小こども園」で、代かきを行い、もち米を植えた。折々に生育の様子を観察し、記録に残した。</p> <p>秋、たわわに実った稲を丁寧に刈り取り、はざかけ後、脱穀を行った。苗箱5枚に入っていた小さな苗は、148kgの稲として生長した。稲の生長を通して、命を育む大変さならびに喜びを感じ取ったようだった。</p>	学級担任 保護者 地域ボランティア もち米
25	湘南三浦	小3	理科	カイコ	<p>毎朝、校庭で桑の葉を取り、カイコに与えていた。また、カイコが快適に過ごせるような飼育箱を考えて用意し、こまめに掃除していた。繭を作る兆しを見つけては、興味深く観察していた。</p> <p>夏休み明けには、繭および糸繰りによって繰り出した生糸を用いて、キーホルダーを作成した。一生懸命に桑の葉を食べ、繭になっていった命を、人間が生活のために生かす経験は、子どもに達の心に深く刻まれたようだった。</p>	学級担任 カイコ
26	湘南三浦	小3	理科	命を育む (蚕の飼育)	蚕を卵から飼育し、成長を見守ることを体験した。実際の「命」を育むことで、命を愛おしみ大切にすることや、飼育していくことの難しさを感じていた。	
27	湘南三浦	小5	理科	メダカを育てよう	<p>生命の誕生の単元で、メダカの飼育をした。各クラスとも教室で飼育を続けたが、世話がうまくいかず、生命が絶えてしまった。子どもたちは、これまでの世話を振り返り、問題点を洗い出した。</p> <p>これらの反省を生かし、もう一度メダカの飼育を始めた。今では、丁寧かつ慎重に世話をし、メダカは健康に育っている。子どもたちは、生命への責任を実感することができたようであった。</p>	理科専科 メダカ

28	湘南三浦	小3	理科	チョウを育てよう	子どもたちは、校庭のキャベツに生みつけられたモンシロチョウの卵を見つけ、教室に持ち込んだ。そして、キャベツの葉を交換したり飼育ケースを掃除したりするなど世話を続けた。成虫になったモンシロチョウとは、さようならをして、屋外へ飛び立っていく様子を見守った。 卵から飼育を続けることで、幼虫が成虫になっていく様子を細かに観察することができた。そして、生命の不思議さについて考えるきっかけとすることができた。	理科専科 モンシロチョウ
29	湘南三浦	小5	理科	メダカの観察	理科の授業としてメダカを題材とした単元を扱った。理科の授業としてはメダカの体を観察した。その授業の中でメダカがどのように生活するのかを考え、命の大切さについて学んだ。	
30	湘南三浦	小3	理科	昆虫の育ち方	昆虫の成長の過程や体のつくりに着目して、複数の種類の昆虫を比較しながら昆虫の成長のきまりや、体のつくりを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や生物を愛する態度などを養うことができるようにした。	(使用教材) 教科書・ワークシート
31	湘南三浦	小4	理科	植物の生長の連続性	年間を通してヘチマを育てた。4月に種の観察から始め、小まめにその生長を観察して詳しく記録していった。秋になり、種をとり、その種をまた、教室で育てていった。芽が出て、生長していく様子を観察することで、ヘチマが種から生長して実を付け、種ができ、そしてその種からまた生長するという植物のいのちの連続性を体感することができた。	
32	湘南三浦	小5	理科	生命のつながり	生命の誕生からその成長に至るまでの過程を学ぶ中で、自分たちがいかに貴重な存在であるか、考える時間を作った。自分自身が生まれ育った経緯や、ここまでの成長してくる中で苦労した部分などを保護者にインタビューなどをして、命のつながりを俯瞰的に見られるように留意した。やがて大人になり、次の世代に受け継いでいくことについても触れ、生命尊重についても考える機会を持った。	大日本図書 「たのしい理科」 生命のつながり ひとのたんじょう
33	湘南三浦	小5	理科	生命の誕生	講師を招き、「ジェンダーについて」、「身体の変化について」、「プライベートパーツについて」、「妊娠から出産までについて」の授業を受けた。授業を通して、自分の存在価値を高め、自分も相手も大切にすることを養った。	
34	県央	小5	理科	魚のたんじょう	理科「魚のたんじょう」の学習では、クラスで飼育できるメダカを教材にし、卵から稚魚の誕生までの様子を観察し、命の尊さに触れる学習をした。児童一人一人がメダカの受精卵を解剖顕微鏡で観察し、「いのちの誕生」について実感的に学び、感動している様子だった。	

35	県央	小5	理科	動物の誕生	動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする学習。各クラスで実際にメダカを育てたところ、児童は意欲的にえさやりを行っていた。また、水温や水質にも気を配り、メダカが弱った際には心を痛める様子も見られた。	指導は専科教諭 ヒメダカを飼育
36	県央	小5	理科	「ヒトのたんじょう」	ヒトの受精卵から育ちヒトがたんじょうするまでについて、様々な哺乳類と比較しながら、いろいろな資料を使って調べた。メダカの成長の学習と並行しながら、大きさが変化することや、成長するために必要な養分をどのように取っているのかなどについて、図鑑やインターネットを使って調べ、調べたものは、画用紙やパソコンでまとめた。また、出産経験者の体験談を交え、心の尊さに触れレポートにまとめた。	インターネット NHK for School 「ふしぎいっぱい」 図鑑 小学館の図鑑NEO
37	県央	小5	理科	受けつがれる生命	メダカの誕生や成長、雌雄の特徴や養分のとり方について興味をもち、世話をすることで生命を大切にしようとする気持ちを持たせるようにした。 ヒトの誕生に興味をもち、胎児の母体内での成長のようすについて、進んで調べることで生命のすばらしさをとらえることができるようにした。	
38	県央	小5	理科	いのちの教室	1.いのちの始まるお話を聞く。 2.出産の様子を知る。 3.出産の様子をDVDで見る。 4.生まれた後の話。 5.赤ちゃん人形を抱っこする。	すくすく子育て課家庭 子ども相談係 大和市立病院小児科医師
39	県央	小5	理科	人の誕生	命が誕生するまでの様子を勉強した。命が約0.1mm程度の受精卵から始まり、母親のお腹の中で徐々に大きくなっていく様子を人形を使いながら学習した。実際に生まれる時の様子をビデオで視聴し、母親の大変さや家族の喜びを理解した。それを踏まえて、各クラスで命について考えたことをまとめた。母親の苦勞を感じたり、生まれてきたことに感謝の気持ちをもったりした。	スライド資料 映像資料 胎児の人形
40	県央	小3	理科	チョウを育てよう	モンシロチョウやアゲハチョウの卵を教室に持ち帰り、それらをクラスで育てる授業。卵からチョウを育て成長していくのを観察していく中で、チョウや命に対する意識が高まっていくのを感じられた。2種類のチョウを育て比較することで、それぞれのチョウが命をつなげる工夫をもっていることに気が付いた。最終的に成虫にならずに死んでしまい、そこから責任を持って育てなければ死んでしまうことを学んだ。命の尊さと重さを学ぶことができた。	

41	県央	小5	理科	人のたんじょう	<p>単元末に、現在妊娠中の教員がお腹の中の赤ちゃんの様子や妊娠中に気づいたことや考えていることなどを5学年全児童に対して講話した。エコーの写真や動画などの資料を視聴することもできて児童は学んできたことを改めて振り返ることができたり、妊娠中の生活についても分かりやすく学ぶことができた。最後に「命は奇跡である」という内容で、奇跡的に今ある自分の命を大切にすることと他者の命についてもかけがえのないものであり大切にしていくことの重要性をみんなで共有することができた。</p>	
42	県央	小5	理科	人のたんじょう	<p>「一学期に飼育・観察していたメダカの子どもの誕生と人の誕生は、似ているところや違うところがあるのか」という問題提起から児童が主体となって調べ学習を進めた。調べ学習を通して、「人は母体で何か月もかけて育っていくこと」や、「細胞が分裂し、いろいろな臓器や皮膚がつけられていること」などに気付き、受精後の成長スピードや養分が与えられる点などがメダカとの違いだと捉えることができた。また、生命の誕生の神秘に驚き、感動する姿が見られた。</p>	東京書籍 「新しい理科5」
43	中	小6	理科	生物どうしのつながり	<p>食物連鎖や空気、水などを通して生物同士が繋がっていることを学習した。タブレット端末で写真を並べ替えたり、呼吸のしくみを動画を見たりして理解を深めた。食べ物を通して繋がっている(養分をもらっている)ということは、目に見えるということもあり日頃から意識している児童も多かった。その反面、空気や水に関しては目に見えず、当たり前過ぎることもあり、学習してはじめて意識するようになった児童もいた。本単元の学習は同学年の「自然と共に生きる」という学習とも繋がっていて自分たちの生活が他の生物や環境と結び付いていることをより意識できるようになった。</p>	学級担任
44	中	小5	理科	ヒトのたんじょう	<p>理科の単元「ヒトのたんじょう」の学習を通して、人の卵や胎児の成長の様子を時間の経過と関係付けてとらえられるように学習をしてきた。その学習の中で、可能な範囲でお家の方へのインタビューを行うことで、自分が母親の胎内にいたときに母親はどのような気持ちでいたのか、生まれたときはどのような気持ちであったのかを知り、自分の命は自分ひとりだけのものではなく、家族の思いと共にあることを学んだ。</p>	教科書
45	中	小6	理科	ヒトや動物の体	<p>ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて調べることで生きていくために必要なものや環境について考える。日常生活の中で食べたり飲んだり、呼吸したりすることができる健康な体を大事にしなければいけないことに気付き様々なことに感謝して生きていくことを考えさせたい。</p>	啓林館 『わくわく理科』
46	中	小3	理科	チョウをそだてよう	<p>理科「チョウをそだてよう」の学習で、アゲハチョウやモンシロチョウを飼育した。飼育することで、日に日に幼虫が大きくなったり体に変化していったりする様子を実際に見て、命の不思議さに触れることができた。さなぎからチョウになった後、また自然に戻した。その時チョウの力強く羽ばたく様子や幼虫の世話を通して、一つの命に向き合い、その大切さを感じることもできた。</p>	

47	中	小5	理科	いのちのはなし	助産師の方による「いのちのはなし」では、お腹の中にいるときの赤ちゃんの心音や産声を聞いたり、命の最初の大きさ（受精卵）を見る等の体験を行った。自分自身のいのちの始まりから誕生までを知ること、生きている素晴らしさについて考えることができた。また、助産師さんの話に感銘を受けた児童は多く、自分自身のかけがえのないいのちの大切さに気づくことができた。他者だけでなく、自分の「いのち」について、深く考えられる機会となった。	助産師
48	県西	小5	理科	メダカの誕生	理科の授業を柱に、餌やりや水槽掃除、水の入れ替え、卵の発見及び水槽移動などを、児童が全て行った。朝登校してから帰るまで、休み時間の度に世話をしている児童も幾人かいた。卵の様子を顕微鏡で毎日観察を続け、変化がある度に児童同士で確認することができた。 孵化までの様子を観察するなかで、メダカが目、体が動く様子を見てとても小さい体にも命があることを実感していた。孵化したあとも、成長させるために、児童たちが自発的に水槽掃除や水入れ替えを継続することができた。	
49	県西	小5	理科	生命のつながり 人のたんじょう	人の誕生や成長について、「メダカのたんじょう」で学習した内容を思いだしながら学習を進めていった。その過程の中で、胎児がどのように成長していくか知るとともに、自分の誕生についても振り返って考えていくことができた。また、新たな命を授かった母親の思いにも触れ、自分の命は母親をはじめ周りの人に大切にされながら大きくなった命であることを改めて考え、大切にしていけるべき尊いものだと振り返ることができた。	教科書 生命のつながり メダカのたんじょう
50	県西	小5	理科	「魚のたんじょう」	生まれたメダカの受精卵がどのように変化して育っていくのか、顕微鏡を使って観察をする授業だった。顕微鏡から見えた様子を細かく記録をしながら、あわは空気の役割をしていそう、細かい糸がたくさん付いているけどなんでだろうなど、興味深く観察をしていた。講師が、電子顕微鏡を用いて大きく映し出して、動いている受精卵を見ながら説明を聞いた。小さな動きや少しずつ変化する様子を見て、「こんなに小さな卵でも生きているんだ」と驚く様子が見られた。また、一人一つのメダカの受精卵を毎日顕微鏡で見て、受精卵が日々変化していく様子に感動する児童が多くいた。とても小さな卵にも、心臓があり動いているということを見て、メダカの卵も自分たちと同じ一つの命であり、大切に育てたいと考えている児童がいた。	講師は、理科（メダカ）に詳しい教職員。
51	県西	小3	理科	「チョウを育てよう」	畑や花壇の葉の裏にいるモンシロチョウ、アゲハチョウ、ツマグロヒョウモンの卵や幼虫を採集して、蝶が成虫になるまで飼育した。1人1つの虫かごを準備し、幼虫が成長する様子やさなぎになる様子を詳しく観察した。蝶が成虫になった時は、自然に戻した。自分たちが一生懸命育てた生き物が無事に飛び立つ様子をみんなで見送り、命の大切さを実感することができた。	

52	県西	小5	理科	「魚のたんじょう」	本校では、毎年6年生からメダカを引き継ぎ、5年生が1年間飼育する取組みを行っている。子どもたちは生き物に対する関心が高く、毎日欠かさず世話を行っていた。魚がどのように卵を産み、どのように育っていくかについて学習した際には、メダカの卵をいただいた方に講師として講義してもらったことで、子どもたちが新しい命に興味・関心をもって、主体的に取り組む姿が見られた。	元小学校校長を講師として出前授業を依頼。→メダカの卵をいただき、卵の中の様子、孵化、成長の様子を観察。
53	県西	小3	理科	モンシロチョウの命	理科で学級園に植えたキャベツにモンシロチョウが卵を産み付けた。葉と卵を教室で育てた。糞の掃除をし、エサ（キャベツ）を新鮮なものに替えたりしながらほぼすべての卵が幼虫になり、教室や廊下の壁や天井でさなぎになり、モンシロチョウになって教室の窓から旅立っていった。一方で、学級園から幼虫になったたくさんのモンシロチョウは、さなぎになるとほとんどのさなぎにハチが寄生し、さなぎが真っ黒になり死んでしまった。自然の生物の命のはかなさや自然で生きることの厳しさを学んだ。	理科3年 チョウを育てよう
54	県西	小5	理科	魚のたんじょう	講師の方のご厚意で一人一人がメダカの受精卵をいただき、解剖顕微鏡で観察した。学習では、「生命の誕生」について実感的に学んだ。脈の動きや血液の流れを視覚的に捉えることで、小さな卵の中の生命の育みについて実感した。授業後は、それぞれで卵を管理し、孵化するまで丁寧に観察を続けた。観察を続ける中で、変化を見つけて驚いたり、喜んだりする様子が見られた。孵化の瞬間には、多くの児童の喜ぶ様子が見られた。	講師 元小学校校長先生